

# 令和4年度 音更町立共栄中学校の経営

## 1 はじめに

教育は、生徒の潜在能力を引き出し、その可能性に期待する営みである。一人一人の生徒のよさや可能性を信じて粘り強く教育実践にあたり、その開花に喜びを感じる教師でありたい。

そのためには、学校は地域の共有財産であるとの認識をもち、教師のものさしだけでなく、生徒の視点や保護者・地域の考え方等に置き換えて、豊かな感性に基づいた学びを実践し、教師力を磨いていく必要がある。

また、学校が組織体として有効に機能するためには、教職員一人ひとりが学校経営に参画する意識を高め、互いを尊重し協働体制を築くことが必要である。それぞれのよさや持ち味を出し合い、切磋琢磨しながら風通しのよい組織づくりを大切にしたい。

常に生徒を真ん中に、公教育を担うものとしての責任を自覚し、大きな信頼に応えるために、学校教育目標の具現化を目指した教育活動を推進させる。

## 2 経営の方針

- (1) 地域性を基盤として生徒の実態を考慮した教育課程の編成・実施に努める。
- (2) 課題解決を目指した教育実践に努める。
- (3) 協働体制を確立した学校組織づくりに努め、魅力ある学校を構築する。
- (4) 保護者・地域との連携・協働体制を構築し、開かれた学校づくりに努める。

## 3 学校教育目標

- 目標 「豊かな心を求める生徒」  
「力いっぱい学ぶ生徒」  
「素直に感謝する生徒」  
「進んで心身を鍛える生徒」

## 4 目指す学校像、地域像

- ・ 生徒、保護者、地域住民の思いや願いを受け止め期待に応える学校
- ・ 生徒一人一人のよさや可能性を伸ばし、地域の担い手を育てる学校
- ・ 命や心を大切にし、進んで学習やスポーツ・文化活動に取り組む生徒  
(知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成)
- ・ 子どもの未来に責任と期待を寄せ、学校と共に歩む保護者
- ・ あたたかく優しく子どもを見守り、共に手を取り進む地域

## 5 経営のテーマ

夢を抱き、整然とした中に活気溢れる学校

自分を大切に          仲間を大切に          あたり前を大切に

## 6 経営の重点

### 共栄ブランド＝知恵 「社会で生きる学習力を育てる」

- (1) 「教育の質」の向上
  - ・全教職員によるカリキュラム・マネジメントの充実
  - ・検証改善サイクルを確立させた組織的な取組の充実
  - ・ICT環境を積極的に利活用した授業実践をはじめとする情報化の推進
- (2) 「確かな学力」指導の充実
  - ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実による授業改善の推進
  - ・基礎・基本の確実な定着
  - ・組織的・系統的な学力向上の取組
- (3) 「健康でたくましい体」の育成
  - ・体力向上マネジメントを基にした日常的な取組の充実
  - ・家庭や地域と連携した望ましい学習・生活習慣の確立と食育、家庭学習や読書活動の充実
  - ・安全・防災教育の充実、感染症等への適切な対応の徹底
- (4) 「指導技術」の向上と日常化
  - ・校内、個人研修の活性化と成果の活用や外部、専門的な人材を積極的に有効活用した研修の充実
  - ・アンケート、評価等の実施と検証、活用の充実
  - ・教職員の資質能力の向上に向けた人材育成の推進

### 共栄プライド＝矜持「社会で活躍する人間力を育てる」

- (1) 「豊かな人間性と社会性」の育成
  - ・集団意識の醸成と情報の共有と指導の徹底
  - ・いじめや不登校・児童虐待の未然防止・早期の組織的な対応
  - ・道徳教育、キャリア教育、ふるさと教育の充実
- (2) 「自主性と協調性」の伸長
  - ・コミュニケーション力の育成
  - ・特別活動の活性と効果の活用
  - ・組織的継続的な特別支援教育の充実
- (3) 「保護者・地域・異校種」との連携・協働体制
  - ・学びを支える地域人材や文化施設等の教育資源、外部講師の積極的な活用
  - ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組の推進
  - ・子どもの学びをつなぐ小中連携教育の推進
- (4) 「信頼される学校」の構築
  - ・学校の教育活動の積極的な情報発信、啓発と参観、意見交流等の機会拡充
  - ・学校における働き方改革の着実な推進と意識改革・組織的対応
  - ・服務規律の保持・徹底と不祥事根絶の取組、「報告・連絡・相談・確認」を徹底した組織体制の確立